

# マダイの種苗生産

## (栽培漁業種苗生産事業)

近藤徹郎・大濱 豊・森脇和也・吉田太輔

土川陽子<sup>1</sup>・柳谷浩一<sup>1</sup>・富室孝仁<sup>1</sup>・小中大輔<sup>1</sup>

### 1. 研究目的

放流用種苗として、全長25mmのマダイ種苗を113万尾生産する。

### 2. 研究方法

#### (1) 親魚飼育及び採卵

親魚には、地元漁協で購入し、当部の海面生簀(8×4×4m)で飼育しているマダイ100尾を用いた。餌は配合餌料、冷凍イカ、沖アミを給餌した。4月上旬に親魚を室内水槽に収容し養成、採卵を行った。得られた卵は浮上卵と沈下卵に分離し、浮上卵のみを一旦1晩流水管理し、翌日計数して水槽に収容した。

#### (2) 仔稚魚の飼育管理

飼育水槽は50t水槽1面、100t水槽4面、200t水槽1面を用い、浮遊卵を1.4~2.4万粒/t程度の密度で収容した。

飼育水は砂ろ過UV海水を使用し、生産後期にこれらが不足した場合は生海水も併用した。基本的な飼育管理は種苗生産マニュアル<sup>1)</sup>に従って行い、ワムシ給餌期間中は止水換水、その後流水飼育とした。また、日令27日目からは、50t水槽1面を用い、仔稚魚の選別・分槽を行った。

#### (3) 餌料

餌料は、仔稚魚の成長に応じて、栄養強化したS型ワムシ、冷凍コペポーダ、アルテミア幼生、配合餌料を適量給餌した。なお、ワムシの栄養強化には(株)クロレラ工業製の

SV12を、アルテミアには(株)日清マリンテック製のマリンアルファ、マリングロスを用いた。

#### (4) 鼻孔隔皮欠損個体出現率調査

サンプルには出荷時の種苗を用い、水槽ごとの鼻孔隔皮欠損の有無を確認した。

### 3. 研究結果

#### (1) 生産結果

採卵は平成22年5月18日から29日にかけて行い、計1165万粒の卵を収容し、669万尾(孵化率57%)のふ化仔魚を得た。種苗生産は7月23日まで実施し、全長25~50mmのマダイ種苗計191万尾(ふ化後生残率29%)を取り上げた。

#### (2) 鼻孔隔皮欠損個体出現率

飼育水槽ごとの出現率は20~90%で、水槽ごとに大きなばらつきがあった。前年度75~97%、前々年度44~93%と比較しても、今年度は特に水槽ごとのバラつきが大きかったと言える。

### 4. 研究成果

生産したマダイ種苗は県内中間育成施設に出荷した。種苗は各施設で中間育成された後、各地先に放流された。

### 5. 文献

- 1) 島根県水産技術センター：種苗生産マニュアル(改訂版)，(2010)

<sup>1</sup> 島根県水産振興協会栽培漁業センター